

【 液肥の効果 】

アミノ酸成分が多く含まれており、根や葉の成長促進効果等が期待できます。また、土壌中の微生物活性効果により根張りがよくなる等、生育しやすい環境を作ります。

【液肥の使用方法】

① 土づくりで使用(土に直接散布する場合)

- ・原液をそのまま散布し耕運する。
- ・約1㎡の土地に、原液10ℓを目安に散布。(液肥のみで野菜一作育つ目安)
- ・作付けは、散布後10日から2週間空けてからが好ましい。

② 追肥で使用(すでに植えてあるものへ使用する場合)

- ・原液を100倍程度に薄めて葉や根の周りに使用する。(葉面散布可)
- ※原液は酸性が強く、直接葉や根にかかると枯れる恐れあり!(pH3~4)
- ※例:500mlのペットボトルに対してキャップ1杯分。

③ 樹木(果樹等)へ使用

- ・追肥と同様に、100倍希釈液を葉や根の周辺に散布する。
- ・樹木の枝や葉の茂っている部分(樹冠)を目安に、その外周(根の外側)に、
- ・原液を使用することが可能。

【その他】

- ・発酵しガスが発生した場合は、ガス抜きをしてください。
- ・保存期間は3か月程度となります。(なるべく暗所で保管してください)
- ・液肥使用に伴う生育状況の保証はできませんので、ご了承願います。

≪液肥使用実績≫

- ・緑のカーテン(図書館前)
- ・市民向け無料配布会
- ・協力農家、市所有の畑 etc...

バイオマスセンターの液肥は...

給食残渣に水と微生物活性剤を加え、乳酸菌をはじめとする微生物が、残渣を分解し発酵させることで完成します。自然由来の原料によって作られているため土壌にもやさしいものです。土にまくことで、土の中の微生物が増え活発化し、土壌改良の効果が期待できます。

液肥無料配布

●日時

毎週月・金曜日

午前8:00から午前11:30まで

毎週水曜日

午後1:00から午後4:30まで

※祝日・年末年始はお休みです。

●場所：甲斐市バイオマスセンター
(玉幡中学校北側)

●持ち物：20ℓポリタンク等の容器

甲斐市 バイオマスセンター



甲斐市バイオマスセンター概要

◆場所：甲斐市西八幡3170
(玉幡中学校北側)

◆生ごみ搬入元：

- ・竜王地区小中学校9校
- ・敷島学校給食センター
- ・市立保育園5園

※双葉給食センターは独自で堆肥化



●問い合わせ
甲斐市環境課環境保全係
TEL 055-278-1706

●webサイト

検索 甲斐市バイオマスセンター

学校・保育園の給食残さを肥料に

動植物から生まれた有機性資源であり、化石燃料とは違い、生命と太陽エネルギーがある限り持続的に再生可能な資源です。廃棄物処理されていた再生可能な資源を有効活用し、循環させることでリサイクルの環ができます。ごみ減量化だけでなく、CO2の削減等により地球温暖化対策にもつながります。

バイオマスセンターでは

市内の学校・保育園の給食残さ等の生ごみは、年間約90トン発生しています。

甲斐市バイオマスセンターでは、バイオマスの有効活用の研究と生ごみの減量化推進のため、市内の小中学校や保育園から排出された給食残さを液肥・堆肥化する取組を行っており、できあがった肥料は、市民向け無料配布や、協力農家への配布により有効利用を図っています。

ごみ処理の現状

甲斐市では、毎年約1万7千トンのごみが家庭から出されており、全体の約90%が「燃えるごみ」であり、その3割~4割を占めるのが生ごみです。

ごみ処理にかかる費用は、年間約6億圓に達しており、ごみ減量化による経費縮減は緊急の課題となっています。

家庭生ごみの受け入れも開始

更なるごみの減量化や、循環型社会の確立を目指し、甲斐市バイオマスセンターで家庭生ごみの受け入れを開始しました。

液肥無料配布日(このパンフレットの裏面に記載)と同じ日時に受け入れを行っていますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

生ごみ持込に関する注意

- 分別 下記の表を参考に分別したうえでお持ち込みください。
※基本的に受入できるのは人間が食べられるものだけです。
- 油切り 油が多いものは、油分を取り除いてください。



<p>持込できるもの ※基本的に人間が食べられるもの</p>	
<p>処理が必要なもの ※5cm角以下にきざみます</p>	
<p>持込できないもの</p>	